

韓国人向け福島県モニターツアー 『震災からの復興や食・歴史・自然の魅力が体感できるツアー』開催について

令和4年12月20日

復興庁では、国際社会における風評の影響の払拭のため、科学的根拠に基づく正確な情報や福島の復興の進捗、食・観光の魅力について情報発信に取り組んでいます。

このたび、新型コロナウイルス感染症に伴う水際対策が緩和されたことを受け、福島県へのインバウンド観光の拡大を通じて、原子力災害からの復興を後押しするとともに、風評の影響の払拭を図るため、多くのインバウンド観光需要が見込まれる韓国人の方を対象にしたモニターツアーを11月8日(火)から11月11日までの3泊4日実施し、韓国メディア2社とインフルエンサー3名を含む25名の方にご参加頂きました。



＜震災遺構 浪江町立請戸小学校＞



＜東日本大震災・原子力災害伝承館展示＞



＜大内宿散策＞

＜問い合わせ先＞

「福島モニターツアー」事務局(東急エージェンシー)

担当: 藤生 TEL: 070-6945-8995 fujio@tokyu-agc.co.jp

川口 TEL: 070-6945-9606 kawaguti@tokyu-agc.co.jp

1日目：令和4年11月8日（火）

一日目、韓国から訪日された参加者の入国手続き後、空港内で昼食を取って頂き、専用車でいわき市へ。四倉町の「ワンダーファーム」で独自の栽培技術とITによる管理によるハウスで安全に生産された各種トマトの試食・収穫を体験しました。隣接の売店「森のマルシェ」では、ジュースなどの加工品の他に、今まで食べたことがない人が殆どのトマトのソフトクリームが人気でした。



一日目は浜通りエリアを代表する人気リゾート「スパリゾート ホテルハワイアンズ」に宿泊しました。グランダイニング「ザ・パシフィック」で夕食後、映画『フラ・ガール』で有名なフランドンショー「ポリネシアン・グランドステージ」を鑑賞しました。夜は大浴場「湯の丘」など複数ある温泉で長旅の疲れを癒して頂きました。


2日目：令和4年11月9日（水）

2日目は浪江町に移動し、一般社団法人まちづくりなみえの石山佳那氏の案内で、震災遺構浪江町立請戸小学校と大平山霊園を見学しました。海岸から300メートル以上も離れた校舎の2階近くまで津波が襲ってきたことを知り、当時の津波の恐ろしさに驚いた様子でした。津波が来ることを知った近所の住民が、学校に駆け込んで伝えてくれたこと、保護者からの学校での引き渡し要望を教職員が毅然と断り児童の避難を最優先したこと、ひとりの児童が学校から避難先の大平山の近道になるあぜ道をたまたま知っていたこと、体の不自由な児童が逃げ遅れないよう皆で手を差し伸べて協力していたことなど、全員奇跡的に無事避難できた話や、地元消防団の方達が震災後に多くの生存者がいた可能性があったにも関わらず、翌日にはこの周辺地域が立入禁止になり救助活動ができなかったことに対し、避難指示を無視してでも、がれきの下で助けを求めて苦しんでいた人々の救助に向かうべきだったと今でも悔やんでいるという話に目頭を押さえる方もいました。



昼食は浪江町の『道の駅なみえ』のフードテラスかなでへ。参加者の方々になみえ焼きそばや海鮮丼、請け丼など、昨年11月に復旧した請戸漁港で水揚げされた新鮮な海産物を豊富に使ったメニューなどを召し上がっていただきました。施設内に昨年12月に開園した「ラッキー公園inなみえまち」があり、韓国でもポケモンはゲームで人気があるようで、写真を撮る方が多かったようです。



午後からは、「双葉町産業交流センター」で地元で復興に携わる3名の方に、震災の体験談や現在の仕事や活動、復興にかける想いについてお話を伺いました。そして、韓国の皆様にもぜひ一度福島に来ていただき、実際に体験して欲しいという想いを伝えられました。参加者からは「どのような想いで再びここに戻ってきたのか」「ここで生活して安全に不安を感じることはないのか」「海外に向けてもっと情報を発信していくべきではないか」などの質問があり、活発な意見交換が行われました。

(復興に携わる3名の方々)

- ・小泉 良空 様 (一般社団法人ふたばプロジェクト)
- ・山口 和希 様 ・須賀 愛良 様 (一般社団法人葛尾むらづくり公社)



双葉町産業交流センターの後、隣接の「東日本大震災・原子力災害伝承館」へ。原子力災害の当時の状況や現在の復興に向けた取り組みについて知って頂きました。



常設展示室見学の後、災害を実際に経験された方による「館内語り部講話」を拝聴しました。語り部は伝承館職員でもある遠藤美来さん(20)で、当時小学3年生だった彼女の目からみた東日本大震災の恐怖、目に見えず理解が難しかった放射線被害、父親と離れて暮らした避難生活の苦労など、『私の11年』というテーマで語って頂きました。事態がよく理解できない状況で、しばらく両親に会えなかったこと、一時避難した親の実家で、津波が来ることを知った祖父から絶対に家から外に出るはいけないと厳しく注意されたこと、普段は商品であふれていた近所のコンビニやスーパーに食べ物や飲み物が何も無かったのを見た時の驚き、福島から東京まで家族で車で避難した際、大渋滞が続き一週間近くお風呂にも入れなかったことなど、幼い頃の彼女が感じた強烈な体験を語って頂きました。



「館内語り部講話」に続き、復興庁中見参事官から、参加者の質問にお答えしました。参加者の方が懸念している福島の食の安全性については、現在流通している福島産の農林水産物は厳密な検査を受けていて問題無いこと、福島の放射線の空間線量率が現在では国内外の主要都市などと変わらない程度に落ち着いていることなどを、「風評の払拭に向けて」や「放射線のホント」などの韓国語翻訳の資料を配布し丁寧に説明しました。

また、韓国内で懸念されている来年春に予定されている処理水の海洋放出の影響についても、トリチウム以外の放射線物質を安全に関する規制基準値を大幅に下回るまで徹底的に除去されたALPS処理水と呼ばれる浄化された処理水であり、ALPS処理水に残されたトリチウムは水道水や海水、雨水にも普通に存在し、体内に入っても健康へ影響の心配はなく、現在貯められているALPS処理水は100倍以上に薄めて海に流すため、海水中のトリチウムの濃度は水道水と同程度であること、現在世界中の原子力施設で放出されているトリチウムが原因と思われる健康影響は今まで見つかっていないことなどを説明しました。



2泊目は会津若松市東山の温泉旅館「くつろぎの宿千代滝」で、最高級北会津産コシヒカリをはじめ、会津醤油を加えた国産牛ステーキ、南郷トマトなどの地野菜、郷土料理のこづゆや名物の馬刺しなど地元の食材を使った創作郷土料理をフルコースで召し上がって頂きました。会津市街を一望できる最上階の展望露天風呂「游月の湯」も好評でした。



3日目:令和4年11月10日(木)

3日目の午前中は東北地区で初めて建てられた石垣や天守閣などを備えた本格的な城郭として有名な「鶴ヶ城」を見学しました。残念ながら今年10月から始まった大規模補修工事のため天守閣には入場できませんでしたが、南走り長屋・干飯櫓で開催中のデジタルアート展「鶴ヶ城光の歴史絵巻」の見学や、千利休ゆかりの「茶室楼閣」で茶の湯体験をするなど、晴天の下、紅葉が深まる鶴ヶ城城址公園の散策を各々自由に楽しんで頂きました。



猪苗代町に移動し、蕎麦の里「いわはし館」で昼食。猪苗代町は、福島県のほぼ中央に位置し、標高が500m以上もあるため夏季は昼夜の温度差が激しく、冬季は特別豪雪地帯に指定されているなどの豊かな自然と澄んだ空気、清流水、寒暖差のある気候・土壌などの条件が相まり、東日本有数の蕎麦の生産地として知られています。JA会津よつばから仕入れた会津在来種の「いなわしろ天の香」の石臼引き新蕎麦を、地元で昔から結構式などの祝い事で振舞うことが伝統となっている「祝言そばと五段のそば」で召し上がって頂きました。



昼食の後、取麻群磐梯町「榮川酒造」へ。榮川酒造は明治2年(1869年)の創業で、戦後東北で初めて国税庁から一級酒工場の指定を受けるなど、毎年多くの品評会で高い評価を得ている伝統の酒づくりの酒蔵として知られています。蔵元の製造工場を見学し、酒造好適米の「会津米」と、日本名水百選に指定された磐梯西山麓の湧水「龍ヶ沢湧水」から作られた大吟醸酒と純米酒を試飲しました。試飲した日本酒が気に入って、売店でお土産に購入される方が何人もいらっしゃいました。



午後から南会津に移動し、海外でも有名な郡下郷の大内宿を見学。人里離れた山間部の旧会津西街道の両側に30軒以上の茅葺き屋根の民家が立ち並び、国重要伝統的建造物群保存地区に選定されている400年前の江戸時代の姿をそのままの宿場町を散策しました。時代劇にタイムスリップしたような風景を背景に、見晴し台から自撮り写真を撮る方が多かったです。お昼に続き、ねぎを箸がわりに食べる大内宿名物の「ねぎそば」を食べた方もいらしたようです。



最後の3泊目は、栃木県との県境にある西白川郡のゴルフリゾート「グランドエクシブ那須白河」。ツアー行程終了の慰安を兼ねて夕食は特別に宴会会場を貸切りしました。抗生物質や抗菌剤などを使用しない無添加の飼料と農場内で湧き出る天然水で飼育され、白河市農産物ブランドにも認定されている「白河高原清流豚」などを使った日本料理を頂きました。3日間間にすっかり打ち解けた参加者の方々が、名残惜しそうに最後の夜が更けるまで歓談されていました。



限られた日程のなか、広い福島県内の長距離の移動で連日朝早くから多くの場所をご案内し、休憩や昼食時間に余裕がなく、自由行動の時間が少ないなどハードなスケジュールとなりました。ただ、参加者の方々のアンケートでは概ね好評で、特に海外でも有名な「鶴ヶ城」や「大内宿」などの観光や、純和風な温泉や地元産の食材を使った食事、美しい紅葉に満足して頂いたようでした。

また、復興に関して最も多かった声は、「実際に来てみると不安感が払しょくできた。」「福島に来てもらうためには安全性について将来的に広報する必要がある」といった声でした。そのほかにも「地元の方の生の声を聴けて有意義だった。もっと話がしたかった」「請戸小学校の話は子供がいる身として考えることが多かった。」「震災時の経験は教育の面で価値があり、修学旅行先にいいと考える」「復興のために頑張っている様子を見て希望を感じた。」「福島を復興を応援したいと思った」という声もありました。

■概要

(1) 実施日

令和4年11月8日(火)から11月11日(木) 3泊4日

(2) 参加者

原則として韓国在住の韓国人25名(メディア・インフルエンサー含む)

(3) 主催

復興庁

(4) 行程

1日目: 11月8日(火)

- ・「ワンダーファーム(いわき市)」 トマト狩り体験・森のマルシェ(直売所)
- ・「ホテルハワイアンズ(いわき市)」 夕食:ディナーバイキング～ポリネシアン・グランドステージ

2日目: 11月9日(水)

- ・「震災遺構浪江町立請戸小学校」(双葉群浪江町) 見学
- ・「大平山霊園(大平山コミュニティ広場)」(双葉群浪江町) 見学
ガイド…一般社団法人まちづくりなみえ フィールドパートナー石山佳那様
- ・「道の駅なみえ」(双葉群浪江町) 昼食:海鮮丼など
- ・「双葉町産業交流センター」(双葉群双葉町) 地元の復興関係者若手3名様と交流会
- ・「東日本大震災・原子力災害伝承館」(双葉群双葉町)
館内見学～語り部講話～復興庁中見参事官講話
- ・「くつろぎの宿千代滝」(会津若松市) 夕食:創作会津郷土料

3日目: 11月10日(木)

- ・「鶴ヶ城」(会津若松市) 見学
- ・「そばの里いわはし館」(耶麻郡猪苗代町) 昼食:猪苗代産石臼引き手打ち蕎麦
- ・「榮川酒造」(耶麻郡磐梯町) 蔵元工場見学～日本酒試飲
- ・「大内宿」(南会津郡下郷町) 見学
- ・「グランドエキシブ那須白河」(西白川郡西郷村) 夕食:日本料理「花木鳥」

4日目: 11月11日(金)

※4日目は朝食後、ホテルから成田空港へ直行したため行事はありません。

＜問い合わせ先＞

「福島モニターツアー」事務局(東急エージェンシー)
担当: 藤生 TEL: 070-6945-8995 fujo@tokyu-agc.co.jp
川口 TEL: 070-6945-9606 kawaguti@tokyu-agc.co.jp